

## 沖縄の屋敷林に関する研究 (I)

— 沖 縄 本 島 —

琉球大学農学部 中須賀常雄・馬場 繁幸  
石川 武光・長嶺 由秀

## 1. はじめに

沖縄は大小60余の島々からなり、冬季には季節風が卓越し、夏季は台風の常襲地であることから、防風対策の一つとして古くから屋敷林が造成されてきた。また、その立地が亜熱帯という気候風土から屋敷林の構成種は本土とは異なったものが多くみられる。今回は沖縄本島の屋敷林について、構成種を中心にその特徴を報告する。なお、本報告では家屋を取り囲んでいる樹木類、竹類及びヤシ類の集団を屋敷林としてとらえた。

## 2. 調査方法

沖縄本島の行政的地域区分に従って、北部に11地域、24調査地点、中部に4地域、10調査地点及び南部に8地域、17調査地点、合計23地域、51調査地点の屋敷林を調査した(図-1)。各調査地では簡単な平板測量を行ない家屋や樹木の配置及び種名を記入した平面図を作成した。また、それと平行して、家屋の建築や屋敷林造成の経過などについて聞き取り調査を行なった。

## 3. 結果及び考察

1) 構成樹種: 屋敷林の構成樹種は、樹木類では高木48(16)種(括弧内は外来種)、中木54(12)種、低木33(15)種、計135(43)種及びヤシ類24(17)種、合計159(60)種であった。高木のうち主な在来樹種は、アカギ、アコウ、イヌマキ、イスノキ、ガジュマル、クスノハカエデ、ヤブニッケイ、ホルトノキであり、外来樹種としてアメリカデイゴ、キワタ類、ホウオウボク、モクマオウ類、ユーカリ類、及びヤシ類のダイオウヤシ、ユスラヤシ等であった。中木のうち主な在来種は、アデク、オオバギ、オオハマボウ、クロキ、ゲッキツ、ブソウゲ、シマグワ、シヨウロウクサギ、トベラ、ネズミモチ、マサキ、モンパノキ、及びヤシ類のピロウ、アダンであり、外来種はカイズカイブキ、ヨウテイボク類、モクセンナ、果樹類、及びヤシ類のアレカヤシ、トゥクリヤシモドキ、クジャクヤ

シであった。低木のうち主な在来種は、オキナワハイネズ、ギーマ、フクマンギ、フヨウ、ツツジ類であり、外来種はクロトン、サツキ類、ヤコウボク、及びヤシ類のシンノウヤシ、ノリナ類等であった。

2) 林型区分: 主要構成樹種に注目して屋敷林を高木型及び中木型に区分し、それらを更に7樹種型に区分した。

i) フクギ型: フクギが列状に植栽された高木型の屋敷林で、防風・防塵・防音効果は大きい。しかし、風通しが悪く、また被陰効果が大きいため採光が不十分になること、蚊などの害虫の発生が多いことと建築様式の変化などに伴い、最近では本林型の屋敷林を造成することは少なく、むしろ伐倒される例が多くみられる。図-2に南部での例を示したが、本島全域に広くみられ、特に本部町備瀬のものは比較的完全な型で残っている。

ii) イスノキ型: 沖縄在来のイスノキ大径木を配した高木型の屋敷林で、現在は主に本部半島地域に典型的なものがみられる。しかし、聞き取り調査によれば、今次大戦前までは広く北部全域に本林型の屋敷林がみられたとのことである。

iii) ガジュマル型: 図-3に示すようにガジュマルを主体として、アカテツ、ヤブニッケイ、クスノハカエデなどを配した高木型の屋敷林である。主に中・南部の石灰岩地域にみられる。

iv) ヤブニッケイ型: ヤブニッケイ、タブノキ、アカテツ、モクダチバナ、チシャノキ等の在来種を主体とする高木型の屋敷林である。各地域毎に若干異なった樹種の組み合わせがみられるが、これらをまとめて本林型に含めた。

v) ヤシ型: ダイオウヤシ、ユスラヤシ等のヤシ類を主体とする高木型の屋敷林で、列状に屋敷を取り囲んでいる。この内側にはトゥクリヤシモドキ、アレカヤシ、クジャクヤシ等が植栽されている。このヤシ型屋敷林は沖縄本来の屋敷林の機能を果たしてはいないが、家屋がコンクリート様式に変化し、屋敷林にそれほど防風効果を期待しなくともよいので、その景観的效果を取り入れて、最近、各地に広くみられる。

Tsuneo NAKASUGA, Shigeyuki BABA, Takemitsu ISHIKAWA and Yoshihide NAGAMINE (Col. of Agric., Univ. of the Ryukyus, Okinawa 903-01)

Studies on premises forests in Okinawa

vi) ブッソウゲ型：ブッソウゲ等を主体とする中木型の代表的な屋敷林で，各地域に広くみられる。従来の沖縄の家屋は低く建てられているので，中木型の屋敷林でも，十分に管理されているものは防風効果を発揮している。

vii) 竹型：リュウキュウチクを主体とする中木型の屋敷林で北部地域にみられる。リュウキュウチクはかつて屋根を葺く材料や日用品の材料として広く利用されたことから，その名残りとも考えられる。

#### 4. おわりに

沖縄は季節風が卓越し，また台風常襲地であるため，その対策として家屋を低く構え，石垣及び屋敷林を利用してきた。しかし，近年，建築様式の変化に伴い，従来からの沖縄の屋敷林が急速に消失しており，これらの屋敷林の現状を記録しておくことは極めて重要と考えられることから，今回は沖縄本島の屋敷林について調査を行なった。今後は沖縄全域に調査を広げると

共に，生活と結びついた樹種の利用等について検討する予定である。

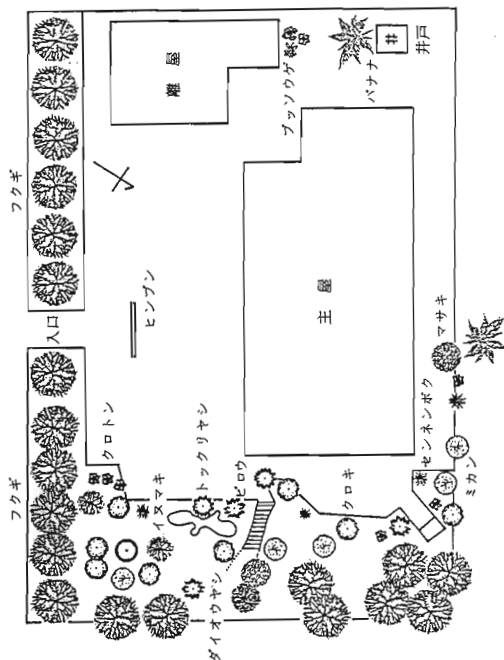


図-2 フクギ型屋敷林 (南部)

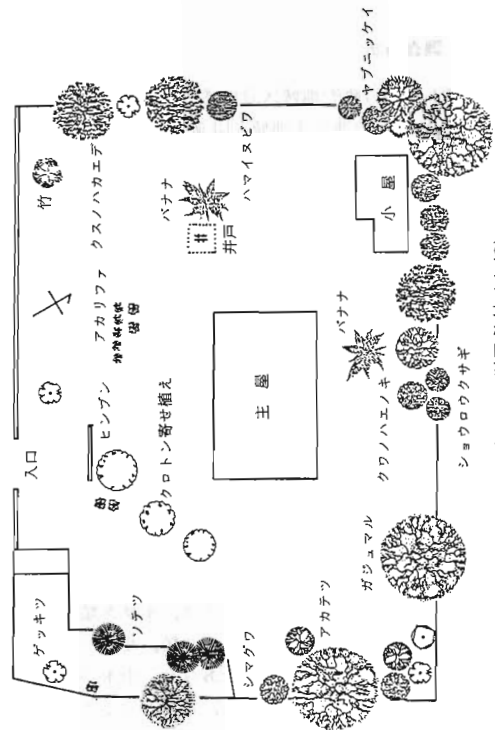


図-3 ガジュマル型屋敷林 (南部)